



Special Olympics
Nippon / Tokyo

SSKR NEWS LETTER



Vol.
60

SSKR NEWS LETTER とらいあんぐる vol.60

氷をも溶かすような熱戦が繰り広げられました!!

「2013年第3回スペシャルオリンピックス日本・東京冬季地区大会」開催

5月25日(土)、都内唯一の公共リンクである江戸川区スポーツランド・スケートリンクにて、3回目となるSON・東京冬季地区大会が開催されました。今回は、フィギュアスケート(FS)とショートトラックスピードスケート(SS)という2競技のみの開催でしたが、他地区からは神奈川・栃木のアスリートも参加し、総勢37人(FS19人SS18人)という規模の大会となりました。

開会式では、多田正見江戸川区長からのご挨拶およびアスリートへの記念品贈呈式があり、区をあげて大会を応援している様子が伺えました。また、それぞれの競技においては、日頃の練習の成果を精一杯発揮しようとするアスリートたちの演技とレースに、会場はおおいに盛り上がりました。

夏季と冬季という二つの地区大会を定期的

に開催することは、そう簡単ではありません。SON・東京のボランティアとファミリーそして事務局が力を合わせ、日常プログラムを規定通り

充実感いっぱいの1日

フィギュアスケート・ボランティアコーチ 瀬谷 紀子

この度、初めて大会に参加させていただきました。大会当日のアスリートのキラキラした顔、練習の成果を存分に発揮できた演技、充実感いっぱいの1日でした。

フィギュアスケートならではの素敵なコスチュームに身を包み、大勢の方々に囲まれ、いつもよりも気分の高まる中、まずは規定の演技が始まりました。シーンと静まった広いリンク、ジャッジの先生方の真剣な眼差し、見ている私達までが緊張してしまう中、繰り返し練習して

に実施し、個々のアスリートにあわせた練習に努めてきた成果でしょう。(それぞれの競技成績はホームページをご覧ください)

きたことをひとつひとつ丁寧に滑り、素晴らしい集中力と出来栄でした。フリーの演技では、リンクサイドでウォームアップをするのも、いつもより積極的でとても楽しんでいるように感じられました。凛とした顔、演技に集中する姿はリンクの寒さを忘れさせてくれるほどに熱くなりました。演技を終えた後のホッとしたような、満足そうな顔に、応援しているだけの私までもがとても満足な気持ちになりました。

いつも、楽しく練習に参加させてもらっていますが、次の大会にも機会があれば参加させてもらいたいなと、またひとつ楽しみが増えました。



開会式(横浜信一 SO日本理事より来賓挨拶)



開会式(多田江戸川区長より記念品贈呈)



アスリート代表が聖火点火



ショートトラックスピードスケートの熱戦



ショートトラックスピードスケート表彰式



ショートトラックスピードスケート全員集合



フィギュアスケート全員集合



フィギュアスケート「ポーズが素敵」



フィギュアスケート「音楽に乗せて」

感動のステージ! 「第4回文化プログラム合同発表会」開催

2013年7月15日(月・祝)、会場となった国立オリンピック記念青少年総合センター・小ホールは、熱気と感動に包まれました。

代表アスリートによる内容紹介と宣誓で始まった発表会は、ゲスト「ファンクション」の客席と一体になる演出で、一気にヒートアップ。その熱は、トップの「ダンスプログラム」へとつながりました。続く「絵画プログラム」と「木彫りプログラム」は一転、作品をスクリーンに映し出すパフォーマンスで観客の心を和ませ、「Let's Play & Sing」は、こども

舞台上に描き出しました。

休憩をはさんだ後半は「アスリート会」が、各プログラムへの取材の様子を発表した後、アスリート一人ずつが独唱する「ふるさと」を「合唱プログラム」が披露し、華やかなフィナーレを迎えました。次回、2年後の発表会も楽しみです。



「エドワーズライフサイエンス」の 助成、決定!

2013年5月22日(水)、エドワーズライフサイエンス株式会社東京本社にて行われた「エドワーズライフサイエンス基金・助成決定証授与式」に、岡松理事長が出席し、ケイミン・ワング代表取締役社長より助成決定証を受領しました。

同社からの助成は「コミュニティ助成事業支援」として2010年から行われており、これまでSON・東京では「若手ボランティア育成プロジェクト」、「ボウリングプログラム活動」、「SON・熊本設立20周年記念全国水泳競技大会への東京選手団派遣」に関する支援として助成金を受けています。授与式にあたり岡松理事長は、「同

社の継続的なご支援に、心より感謝しており、厚く御礼を申し上げます」と、感謝の意を表しました。



スペシャルオリンピックスの活動を描いたマンガが単行本に!!

「これほどSOの活動を丁寧かつ詳しく描いた本はない」「SOの本質と、活動の意義を良く理解できた」…こんな感想が寄せられたマンガ「チャレンジ!〜光とともに」が遺したもの〜を、ご存じでしょうか。秋田書店の雑誌「フォアミセス」に4回に渡って掲載された、鳴母ほのかさんのマンガです。

毎回、SON・東京のアスリートやファミリー、ボランティアにじっくり取材を重ねたこともあり、活動の内容だけでなく、SOを通じてアスリートがいかに成長し、ファミリーの心がどれだけ大きく変化したか、わかりやすく、またリアルに描かれています。

このSOマンガ「チャレンジ!」シリーズの初期3作が、今回ついに単行本としてまとめられ、刊行されました。SON・東京のバスケットボール、テニス、フロアホッケー・プログラムが舞台です。ぜひ、一家に1冊。SOに詳しい方も、まだよくご存知ない方も、ご一読してはいかがでしょうか。今ならSON・東京事務局に申し込みれば、800円(送料別)という割引価格で購入できます。お気軽にお問い合わせください。



「半井清チャリティボウリング」開催

6月22日(土)東京ポートボウルにて、「SON・東京支援 半井清プロ チャリティボウリング」が開催されました。ゲームを楽しむのももちろんのこと、プロの絶妙な投球に会場全体が盛り上がるなど、参加者の笑顔あふれる催しとなりました。

表彰式冒頭には、SON・東京に対する支援金20万円(うち5万円は東京ポートボウルより寄付)が、半井清プロより池田会長へ贈呈され、池田会長からは「いつもながら、多くのご寄付をありがとうございます」という御礼の言葉が贈られました。

【大会参加】丸磯建設株式会社、NPO法人ジャパンユニバーサルスポーツ・ネットワーク

【賞品提供】アシックス労働組合

全国水泳競技大会に参加

5月3日(金・祝)～5日(日・祝)の3日間、SON・熊本主催の全国水泳競技大会に、アスリート8名、コーチ4名、団長1名、総勢13名の選手団として参加しました。

遠征自体が初めてのアスリートだけでなく、アスリートと宿泊を共にするのが初めてのコーチも多かったのですが、DAL(チーム付き現地サポーター)や宿泊ボランティアの方々に恵まれ、楽しく過ごせた3日間でした。ハプニングもありました

が、実行委員のご配慮、他地区コーチの皆さんの助言のおかげでなんとかのりきり、心温まるSOの大会というものを改めて実感できました。

今回の遠征にあたり、ご支援下さった皆様、ありがとうございました。見てください!このアスリートの笑顔を!! これからも様々な場所で彼らは力を発揮し、その輝き

を仲間に、家族に、そして多くの観客に見せ続けてくれることでしょう。これからもご支援のほどよろしくお願い致します。(SON・東京選手団団長 増田絵里)



SON・東京、SON・埼玉、「きさらぎジュニア」がフロアホッケーの交流試合

5月12日(日)、葛飾区立鎌倉小学校にて、SON・東京(チーム名「ウィンターチャレンジャーズ」)は、SON・埼玉(チーム名「レッド・エンジェルズ」)、知的障害児も一緒に活動するミニバスケットボールチーム「きさらぎジュニア」(葛飾区)とともに、3チーム合同によるフロアホッケーの交流試合を行いました。

「きさらぎジュニア」は、2011年の合同練習を皮切りに、昨年の関東ブロック競技会へのオープン参加などを通じ、交流を深めているチームで

す。普段は、同小学校でミニバスケットボールに取り組んでいますが、フロアホッケーの実力もなかなかのもので、決して侮れないチームでした。

一方、埼玉レッド・エンジェルズも、昨年2月の福島ナショナルゲーム以降メキメキと力を付けてきており、わが東京ウィンターチャレンジャーズも今後は、うかうかしていられない状況を実感しました。(とにかく練習あるのみです!)

今回の交流試合をきっかけに、さらに友好が

深まり、お互いに近くて良いライバル関係を築いていけたらなあ・・・と願っています。(フロアホッケー江東会場マネージャー 森本利彦)



WORKING ATHLETES

働くアスリートたち 第18回 熊谷 靖さん(40歳)

埼玉県川口市の荒川沿いに、OA用紙、文具、ユニフォームなどのオフィス用品のほか食品などの通信販売を行っている「フォーレスト株式会社」東日本物流センターがあります。熊谷靖さんは2007年1月に、この職場に転職しました。

▶ 新人に作業を教えることもあるベテラン

熊谷さんは以前、吉祥寺のディスカウントスーパーで働いていました。「でも、家の都合で転職することになり、埼玉障害者職業センターに相談に行き、現在の会社を紹介されて面接、採用が決まりました。いまの仕事は、注文品に合わせて大ききのダンボール作りです」

物流センターの営業時間は8時～21時。約120人がシフト勤務で働き、注文品の入荷・出荷を行っています。1日の荷物は7,000個前後。アルバイトの熊谷さんは、通常週5日10時～18時の勤務ですが、忙しいときには1時間の残業もこなしています。



ダンボール箱づくり

10種類ほどのダンボール箱を組み立てているそうですが、手さばきは見事!「慣れるまでは時間がかかりましたが、いまは1日、すごい数を一生懸命に作っています。仕事をしているときは、まわりの人の言葉遣いや、ほかの人の仕事の邪魔をしないように気をつけています」

熊谷さんは、すでに職場ではベテラン。物流量が多く、熊谷さんたちだけではダンボール箱作りが間に合わないとき、応援に入る派遣会社の人たちに作業の説明をするほどです。「派遣さんでも、前にきた人はすぐ仕事につけますが、初めての人は一から教えます。自分の仕事が止まってしまうと、箱がなくなったりするので、まわりの仕事を見ながら教えています」

▶ 職場の人たちにも信頼されて

物流部物流課の上司・名塚努さんは、「いてくれないと困りますね。とくに『何をして』と指示しなくても動いてくれます。オリコン(プラチック製の折りたたみができる箱)を回収したり作ったりする仕事も、バランスをみてやってくれます。まわりに気を使って仕事をしていますから、まわりの人にも信頼していますね」

熊谷さんは姉夫婦と小学1年生の甥っ子と同居

しています。通勤は、志木駅から電車を乗り継いで川口駅へ。川口からは会社の送迎バスを利用し、約1時間20分です。

「休みの日は、家で甥っ子の面倒を見て、トランプやテレビゲームに付き合っています」

給料はお姉さんが管理しており、熊谷さんはそこから交通費や小遣いをもらっているそうです。

「自分としては、これからも一生懸命働いていきたいです。グループホームで生活して、会社に通いたいけれど、なかなか空きがない。また、僕のほうにそういう気持ちがあっても、お姉さんの気持ちもあるのです。今後のことは、ちゃんと相談してから決めたいとのこと。最後に、名塚さんから熊谷さんへのエールをお伝えします。

「確かに、長く働いてもらったら助かるし、個人的にもうれしいです。ただ、他のアルバイトの方と同様、ここをステップにして、新しいことや興味あることにどんどん挑戦して行って欲しいと思います」(フロアホッケープログラムに参加)



名塚さんと熊谷さん

アスリート：錦織綾乃さん 母：錦織嘉子さん

娘に障害があると分かったのは、5歳の時でした。言葉の遅れが気になり始めた2歳を過ぎた秋、保健所の「言葉の遅れ」という相談窓口を初めて訪ねました。その後、いくつかの医療機関を受診した結果、発達に遅れがあるという診断を受けました。

まったく不勉強で、知識も無い親として娘のために何をしたら良いのか答えも出ないまま、小学校は学区の普通学級に入学させました。勉強は、低学年の頃はなんとか私共も一緒に頑張ってきましたが、中学年以降は徐々に難しくなっていき、同時に友達関係も変化していきました。初めは仲良しの友達もいて、放課後に約束をして嬉しそうに出かけて行くことや、わが家にも友達が遊びに来ることがありましたが、高学年になるにつれ、その数もだんだんと減っていきました。それでも娘にとっては、とても学ぶことの多い小学校生活で、多くの方々に支えられた6年間だったと思います。私の中では自然に中学校は身障児学級という選択に行き着きました。

ちょうどその頃に、娘の先輩のお母様からSON・東京のバスケットボールプログラムの話を聞き、仲良しの友達(「Wあや」の相方・木村綾さん)と一緒に見学。この時が、SON・東京と娘、そしてファミリーとしての素晴らしい出会いとなりました。体育

ホッ プ ス テッ プ ジ ャ Vol.4

大好きなコーチ達と一緒に



錦織さん親子

錦織綾乃さん ● 1987年生まれ。2001年にSON・東京入会 参加プログラム バスケットボール

の授業で少しバスケットボールを習ったことがある程度の娘に対して、一から丁寧に愛情一杯にご指導くださったのは、諏訪ご夫妻でした。とても親身に接していただき、時には厳しく、つねに娘にとって分かりやすい方法で説明していただきました。

地区大会、熊本や大阪の全国大会等、SON・東京と出会う前は限られた狭い世界での日常が、大きく広がりました。様々な地方のアスリートやコーチの方ともあつという間に仲良くさせていただき、メールの交換や年賀状のやり取り、そして、大会に参加させていただくにつれて、他会場

のアスリートとも仲間意識が強まり、ファミリーも含め絆が深まりました。

SOに入った時は中学2年で14歳だった娘も、現在では高校卒業後就労し、社会人8年目を迎え25歳になりました。職場は世田谷の「しゃぶしゃぶの木曾路・用賀店」でお世話になっています。初めは不安だらけでしたが、厨房の仕事にも慣れて今ではわが娘ながら頼もしく思えるほどになりました。なにより娘が職場に誇りを持って働いていることを嬉しく思います。月曜日から金曜日まで本人なりに一生懸命働き、日曜日にバスケットボールの仲間と会い、ただ笑顔で集えることに幸せを感じているようです。

SON・東京ではプログラムの他にも様々なイベントがあり、なかでも「ウォーク&ラン」が待ち遠しいようです。いつもの仲間をはじめ、多くの企業の方々が趣向を凝らしてアスリートを存分に楽しませてくださり、日頃会う機会の少ない事務局の方とも交流できることを楽しみにしています。イベントの本番を迎える当日まで、いつもの準備を重ねてくださるおかげで、たくさんのアスリートの笑顔に会うことができます。

これからも「大好きなコーチ達と一緒に」バスケットボールが続けられますように願っております。

名誉会長、会長、顧問、参与のご紹介(敬称略)

- 名誉会長**：加美山節 **会長**：池田朝彦
顧問：市村茂樹、梅村郁、監物永三、近野博、諏訪なほみ、田窪貞夫、中村正弘、秦政、日野一男、安村朝昭、吉崎勇
参与：(今回新たにSON・東京の応援団として、各界の著名な方々にご就任いただきました)
 梶明彦(株式会社目黒雅叙園 代表取締役社長)
 落合慈之(N T T 東日本関東病院 院長)
 岩村敬(元国土交通事務次官)
 村上佳子(スペシャルオリンピックス支援の会A 代表)

今後の予定

8月23日(金)	暑気払い
8月25日(日)	GOA・救命救急講習
9月7日(土)	三井物産・森林体験教室
10月20日(日)	第11回チャリティウォーク&ランフェスティバル
11月2日(土)～11月3日(日)	SONナショナルミーティング
11月4日(月・振休)	東京海上スポーツ財団 ボート体験会
11月28日(木)～12月7日(土)	2013年SOアジア太平洋大会
12月13日(金)	新生銀行クリスマスパーティー

事務局からのお知らせ SON・東京事務局は2013年8月5日(月)から8月9日(金)まで夏季休暇をいただきます。

SON・東京
オフィシャル
スポンサー

ThreeBond

UBS

citi

Deutsche Bank Group

富士ゼロックス東京株式会社

SSKR NEWS LETTER とらいあんぐる vol.60
 発行所：〒157-0073 東京都世田谷区砧6-26-21
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
 編集元：認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京
 編集人：岡松武司
 編集スタッフ：SON・東京広報委員会／石橋泰介(デザイン)
 定価：100円(代金は会費に含まれています)



認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京
 〒135-0016 東京都江東区東陽2-2-20
 東京YMCA東陽町センター内
 TEL:03-3615-5569
 FAX:03-3615-5581
 E-mail:office@son-tokyo.or.jp
 web:http://www.son-tokyo.or.jp

Update

登録アスリート数:1,421名
 正会員数:1,055名
 (2013年6月30日現在)